

シリーズ 明治 150 年①

磐田に残る 明治の記憶



今年、明治元年（1868年）から起算して満150年。
明治以降、日本はさまざまな分野で近代化への取り組みを進め、
近代国家としての礎を築きました。
この近代化の波は、やがて私たちの住む地域にもやってきます。
このシリーズでは、明治期の磐田市の様子をご紹介します。
シリーズ第1回目は、「旧見付学校」と「旧赤松家」です。

明 治5年（1872年）、政府に
よって日本最初の近代的学校制
度を定めた「学制」が公布されました。
これを受けて、明治6年（1873
年）8月に付近の寺院などを仮校舎
として開校したのが見付学校です。
見付学校は、その後地域の方の寄
付などを元に校舎の新築工事に着手
し、明治8年（1875年）8月に
校舎の落成を迎えました。新築され
た校舎は、基礎となる石垣の上に木
造擬洋風の2階建てで、屋上に2層
の楼が重ねられた当時としては先進
的な外観デザインでした。

現在の5階建ての姿となったの
は、3階部分を増築した明治16年
（1883年）のことです。大正11年
（1922年）に閉校し、その後も裁
縫女学校、病院などとして利用され、
昭和44年（1969年）に現存する
日本最古の木造擬洋風建築の小学校
校舎として、隣接する磐田文庫とと
もに国の史跡に指定されました。
平成4年（1992年）に「旧見
付学校」と改称し、現在は明治初期
から昭和にかけての教科書や文房具
など、教育関連の資料を中心に展示
する資料館となっています。

旧東海道見付宿にそびえる白亜の洋館

旧見付学校（国史跡）



▲開校当初の見付学校（写真①）と
現在の旧見付学校（写真②）。建築当初
は4階（2階2層）建てで、屋上があ
った

レンガ積みの門と塀が明治の面影を残す

旧赤松家門・塀 (県指定文化財)



▲▶明治40年代の赤松家(写真①)と現在の旧赤松家(写真③)。特徴的なレンガ積みの門と塀が当時の姿を残している。写真②は23歳の頃の赤松則良



近代日本造船技術の先駆者である赤松則良が、明治20年(1887年)から明治30年(1897年)代に建築した邸宅の跡が旧赤松家記念館です。

赤松則良は江戸(現在の東京都)で生まれ、元々江戸幕府に仕えていました。幕府の命でオランダに留学して西洋の造船技術や知識を学びました。帰国後は造船技術者として明治政府の海軍整備に尽力し、明治20年(1887年)に海軍中将となりました。また、明治時代初期からは、磐田原台地の開墾にも取り組



み、約20畝の茶園を開いています。磐田に本籍を移したのは、明治26年(1893年)のことです。

旧赤松家に現存する建物には、門・塀・土蔵があり、レンガを巧みに積み上げて明治の面影を残した「門番所」は県指定文化財に、「米蔵」や「図書蔵」は市指定文化財となっています。平成16年8月には、旧赤松家屋敷跡に記念館がオープンし、赤松家にゆかりの品々を展示しています。

アクセス

▼ところ

旧見付学校…見付24452

旧赤松家記念館…見付3884-10

▼入場料

無料

▼開館時間

午前9時～午後4時30分

▼休館日

毎週月曜(祝日または振替休日に当たるときは開館)

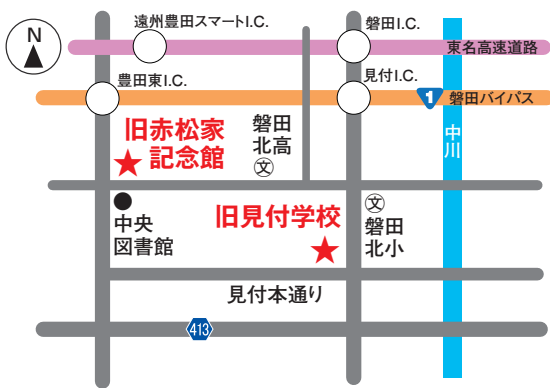
祝日の翌日(ただし土・日・月曜日に当たるときは火曜日が休み)

年末年始(12月29日～1月3日)

▼問い合わせ

旧見付学校 ☎ FAX 32-4511

旧赤松家記念館 ☎ FAX 36-0340



明治150年企画展のお知らせ

旧見付学校企画展

明治150年と学校教育

見付や中泉の学校教育の変化を中心に、明治元年からの150年を写真と年表でたどります。

▼とき

来年3月31日(日)までの上記開館時間

▼ところ

旧見付学校1階西側展示室

▼入場料 無料

歴史文書館第21回企画展

磐田の近代の幕開け

～庶民の明治150年～

江戸時代から明治時代への移り変わりを庶民の生活からたどります。

▼とき

7月9日(月)～8月24日(金) 午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで。土・日曜、祝日休館)

▼ところ

歴史文書館展示室(岡729-1 竜洋支所2階)

▼入場料 無料

